

私のおすすめの本

有馬守康 専任講師

(ミクロ経済学)

『宇宙からの帰還』 立花隆著

中公文庫 1985年

私は高校時代まで、どちらかというと理数系の科目の方が得意でした。理系の進学も考えましたが、社会に出るうえで世の中の仕組みを深く知りたいと思い、経済学部を選びました。そのこともあってか、小学校から物理学や数学、宇宙に関する本を好んで読んでいました。中でもこの本書は、実際に宇宙に行かれた宇宙飛行士たちを詳細にインタビューし、宇宙に行く前と行った後で、自らの思想、特に神の存在について、どのような変化があったかという興味深いテーマを追究したものでした。

私が今でも印象に残っているのは、宇宙から眺めた地球の姿に関する記述でした。満天の星空に浮かぶ視界いっぱいに広がる地球。昼と夜とがくっきり分かれ、真っ青な昼の顔と、暗い夜の顔。そこには国境などなく、静寂を極める宇宙の中で唯一この星にのみ生命の息吹が満ち溢れている。この記述だけで、宇宙から地球を眺めるという夢を持たせるには十分でした。宇宙への旅はきっと私の価値観を大きく変えてくれるものと期待が膨らんだものでした。

話は大学時代に戻ります。経済学部で学んでいくうちに、徐々に経済学の魅力にもとりつかれるようになりました。何より経済学が目指す「効率的な資源配分」と「公平な所得分配」に惹かれ、経済学がもっと進歩すれば、世界から争いや戦争、貧困などの問題がきっと解決されるに違いないと強く思わせてくれました。経済学をもっと深く学びたい—そういう思い学んでいくうちに、私の宇宙への憧れと、経済学の学びが融合し、自らの研究テーマの形成に大きな影響を与えてくれました。

経済学は限られた資源の有効利用を研究します。しかしながら、宇宙開発が進み、人類が宇宙資源を手に入れ、資源の拡大が実現すれば、新たに編成される生産活動を通じて、人類をより豊かにするのではないか。何より、誰もが特殊な訓練をすることもなく気軽に宇宙にアクセスできる時代が少しでも早く実現すれば、私の夢に近づくのではないか。そのためには民間・政府・大学での研究開発を促進する手法を、経済学を用いて研究できなければ。そこから私の研究テーマが研究開発・イノベーションに固まっていきました。

時代は進み、今や民間での宇宙旅行が実現してきています。生きているうちに自らが宇宙に行き、人生観にどのような影響が起こるかを体験し、いつか若き日に描いていた研究の集大成にしたいと思っています。

※なお、本書には2020年の新版も出ており、日本人宇宙飛行士の毛利衛氏の寄稿もありますので、今はこちらをおすすめします。

◎おすすめポイント

宇宙体験は我々の人生観を変えるか？宇宙飛行士への取材から宇宙の人生観への影響を追究した本

筆者自己紹介

有馬 守康（ありま もりやす）

ミクロ経済学系科目担当。主に企業のR&D活動やイノベーションを研究しています。大学内では数少ない日大経済出身者。趣味はプロ野球観戦、東京ヤクルトスワローズの大ファン。